

## 87. 天秤で球ヲ見分ケル問題ニツイテ

(名大理学部数学科学生) 永田 稚宣 (1948.11.19)

" $2^n$ 個ノ球ノウチニ重サノ異ナル球ガ唯一面アル。(重イカ輕イカワカツテ居ナイ)コトキコノ球ノイツカツツヲテ秤ニ乗セテ重サノ異ナルモノヲ見出ス。天秤ノ操作ノ回数 $R$ ト球ノ数 $n$ ノ関係ヲオムル事"

トイフノガ モトモトノ問題デアル。コノ問題ト同時ニコノ問題ヲ多少変更シテモノヲ考察スル。

記号及ビ用語ニツイテ及ノコトヲ約束スル。

(1)  $\frac{x}{y} \leq$  凡ナル自然数 $l$ ノ最小ヲ  $(\frac{x}{y})_l$  デ表ハス。

(2) 球ノ組ニツイテ用語。記号ヲ集合ト同ジニ用キル。

(3) 一ツノ組  $A$  ノ内ニハ 重イモノハナイガ輕イモノガアルカモ知レズ。但ノ組  $B$  ノウチニハ 重イモノハナイガ 重イモノガアルカモ知レヌト イフトキ。  $A < B$  デ表ハス。此處ニテ  $A + B$  トニ 個數ノ差ガアレバ正常ナルモノヲ加ヘテ同數トシ天秤ニカケレバ  $A$  ヲ含ム組ガ輕イコトヲ表ハス。

(4)  $A < B$  ガアツタトキ。  $A + B$  ニ含マレテ居ル球ハ断ラナイ限リ スベテ正常カ異

常力カラナイモノバカリデアルトスル。

(ホ) Aノ含ム球ノ個数ヲ  $\overline{A}$  デ表ハス。

§1. 不等式カラ出発シテ異常ノ球ヲ見出シ得ル回数ニツイテ。

(1)  $A < B$ ガ與ハラレタトキ、コレガアト 長回デ異常ノ球ヲ見出サレルトスレバ イカニ正常ノ球ノ用盡ガアツタトシテモ  $X \equiv \overline{A+B} \leq 3^k$  ヲ要スル。

(1.2) 理ニ正常ノ球 1個ノ用盡ガアルトキ  $X \equiv \overline{A+B} \leq 3^k$  ナラバアト長目デ必ズ異常ノ球ヲ見出シ得ル。

コノニツテ証明スル爲ニ先ヅ補題ヲ準備スル。

[補題]

今  $A < B$  トスル。  $\begin{cases} A = A_1 + A_2 + A_3 \text{ (直和)} \\ B = B_1 + B_2 + B_3 \end{cases}$  トシテ  $A_1 + B_2 + A_2 + B_1$  ト  $B_3$  ト

コノ際正常ノ球ヲ加ヘルカモシレナイ。然ラバ 明ラカニ

(1)  $A_1 + B_2 < A_2 + B_1$  ナラバ、 $A_1 < B_1$

(2)  $A_1 + B_2 > A_2 + B_1$  ナラバ  $A_2 < B_2$

(3)  $A_1 + B_2 = A_2 + B_1$  ナラバ  $A_3 < B_3$

[(1.1)ノ証明]

上ノ補題ノヤウニシテ比ベテ思ル。今  $A_i < B_i$  ガ得ラレタ時、モシ  $\overline{A_i + B_i} = 1$  ナラバ不明ノ球が見出サレルコトニナルガ。サモナケレバ  $A_i + B_i$  ノ球ハ相変ラズ不明デアリ、ソノ他ノ球ハスベテ正常デアルコトガ分ル。

$$\overline{A_1 + B_1} + \overline{A_2 + B_2} + \overline{A_3 + B_3} = \overline{A + B} = X$$

ナル故ニ (1), (2), (3) ノ場合ノ中何レカニオイテハ、

$$\overline{A_i + B_i} \geq \left(\frac{X}{3}\right)$$

トナル。ヨツテ  $X > 3^k$  ナラバ 長回デ見出サレナイ 場合ガ起リ得ル。故ニ  $X \leq 3^k$  ナルヲ要スル。

[(1.2)ノ証明]

上ノ補題ニ於テ  $\overline{A_i + B_i} \leq \left(\frac{X}{3}\right)$  ( $i = 1, 2, 3$ ) ガ得ラレルヤフニ分割出来レバ

ヨイ。但シ正常トワカツテ耳ル球ハ高ク 1個シカ用ナイコトニスル。ソレ

ニハAヲミツノ組  $X_1, X_2, X_3$  ニ分ケテ  $\overline{A} \equiv 0 \pmod{3}$  ナラバ  $X_1, X_2, X_3$

マ  $\bar{A}/3$  個ツツ=スル.  $\bar{A} \equiv i \pmod{3}$  ナラバ

$$\bar{X}_1 = \left(\frac{\bar{A}}{3}\right) \equiv \frac{\bar{A}+2}{3}, \quad \bar{X}_2 = \bar{X}_3 = \left(\frac{\bar{A}}{3}\right) - 1 = \frac{\bar{A}-1}{3}$$

トシ.  $\bar{A} \equiv 2 \pmod{3}$  ナラバ

$$\bar{X}_1 = \bar{X}_2 = \left(\frac{\bar{A}}{3}\right) = \frac{\bar{A}+1}{3}, \quad \bar{X}_3 = \left(\frac{\bar{A}}{3}\right) - 1 = \frac{\bar{A}-2}{3}$$

トスル.  $B =$  ツイテモ同様  $Y_1, Y_2, Y_3 =$  分ケル. 明らか  $\bar{X}_1 \geq \bar{X}_2 \geq \bar{X}_3$ ,  $\bar{Y}_1 \geq \bar{Y}_2 \geq \bar{Y}_3$  デアル. イツレモツツトモ一回ハ等シガ成立スル.

(イ)  $\bar{X}_1 = \bar{X}_2 = \bar{X}_3$  又ハ  $\bar{Y}_1 = \bar{Y}_2 = \bar{Y}_3$  ノツクモ一方ガ成立スレバ 補題ノ  $A_1, A_2, A_3; B_1, B_2, B_3$  マ夫々  $X_1, X_2, X_3; Y_1, Y_2, Y_3$  トスレバヨイ.

(ロ)  $\bar{X}_1 > \bar{X}_2 = \bar{X}_3$   $\bar{Y}_1 > \bar{Y}_2 = \bar{Y}_3$  ナル時 補題ノ  $A_1, A_2, A_3, B_1, B_2, B_3$  マ夫々  $X_1, X_2, X_3; Y_3, Y_2, Y_1$  トオイテ見レバヨイ.

(ハ)  $\bar{X}_1 = \bar{X}_2 > \bar{X}_3$ ,  $\bar{Y}_1 = \bar{Y}_2 > \bar{Y}_3$  ノトキ.  $A_1, A_2, A_3; B_1, B_2, B_3$  マ夫々  $X_1, X_3, X_2, Y_1, Y_2, Y_3$  トスル.

(ニ)  $\left. \begin{array}{l} \bar{X}_1 > \bar{X}_2 = \bar{X}_3 \\ \bar{Y}_1 = \bar{Y}_2 > \bar{Y}_3 \end{array} \right\}$  又ハ  $\left. \begin{array}{l} \bar{X}_1 = \bar{X}_2 > \bar{X}_3 \\ \bar{Y}_1 > \bar{Y}_2 = \bar{Y}_3 \end{array} \right\}$  ナルトキ  $A_1, A_2, A_3; B_1,$

$B_2, B_3$  マ夫々  $X_1, X_2, X_2; Y_3, Y_2, Y_1$  トスル.

コレデ全部ノ場合ヲ書シタルトニナルガ. 何レノ場合=モ個数ノ不揃ハ悉ク個デアルカラ ツケ加ハルベキ正常ノ球ハ悉ク一個デヨイ.

## §2. 正常トカツテ居ル球ヲ用キテヨイ立場ニ於ケル遊メノ問題ノ考察

(2-1) 正常トワカツテ居ル球ガイクラ用意シテアツテモ  $k$  個デ見出スタメニハ  $\ell \leq \frac{3k+1}{2}$  ナルコトヲ要スル.

(2-2) 迄ニ一個正常ノ球ノ用意ガアレバ  $\ell \leq \frac{3k+1}{2}$  ナラバ十分デアル.

[ (2-1) ノ証明 ]

最初ノ操作ニヨツテツノ不等式ガ得ラレレバツレガ  $k-1$  回デ出来ナクテハナラナイ. ヨツテ天秤ニノセル球ノ個数  $X$  ハ (1.1) = ヨリ  $X \leq 3k-1$  デアル.

天秤ガ釣合ツタトキニハ残シタル球カ  $k-1$  回デ見出シ得ナクテハナラナイカラ残シ個数ハ  $k-1$  回デ見出シ得ル個数デナクテハナラナイ. 一回デ見出シ得レノハ 2個以内ノトキデアルカラ

$$l \leq 3^{k-1} + 3^{k-2} + \dots + 3 + 2 = \frac{3^{k+1}}{2}$$

ナルコトヲ要スル。

[(2.2) 証明]

(1.2)ノ結果ヲ考へレバ上ノ証明ヲ見ハレタ 個数デ十分デアルコトハ明ラカデアル。(勿論コノ結果、異常ノ球ガ特ニ重イカ軽イカガ判定出来ルワケデハナイ)

§3 始メノ問題ノ考察

"  $l \leq \frac{3^k - 1}{2}$  ガ必要且十分デアル。

最初ハカル個数  $\chi$  ハ  $\chi = 3^{k-1}$  (=奇数) トスルコト正常ノ球ノ用電ガナイカラ出来ナイ。従ツテ  $\chi \leq 3^{k-1} - 1$  トシナケレバナラナイ。ヨツテ(2.1)ニヨリ  $l \leq \frac{3^k + 1}{2} - 1 = \frac{3^k - 1}{2}$  ナルコトヲ要ス。

次ニ  $l \leq \frac{3^k - 1}{2}$  ナラバ  $\chi$  ハ  $3^{k-1} - 1$  以下デ偶数アルゴトクトリ

$\int 1 = l - \chi \leq \frac{3^{k-1} + 1}{2}$  トスルコトハ可能デアル。

第一回ニ不等式ガ得ラレレバ残シタモノハ正常デアルカラ コレヲ用テ見出スコトガ出来ル。

第一回ニ釣合ヘバ ソレハ正常ノ球バカリトイフコトガワカルカラ  $\frac{3^{k-1} + 1}{3}$  個以内ノ残シタモノカラ見出サレタ正常ノ球ヲ用ヒテ、異常ノ球ヲ見出スコトガ出来ル

§4. 変形サレタニツノ問題ニツイテ。

(1) "始メノ問題ニ於テ異常ノ球ガ果シテ重カツタカ軽カツタカヲ確認セヨ"トイフノニスルト 次ノコトガ言ヒ得ル。

"  $l \leq \frac{3^k - 3}{2}$  ガ必要且十分デアル"

(証明) 不等式ガ得ラレテ 見出シクトキニハ明ラカニ 重カツタカ軽カツタカガ確認出来ル。従ツテ残ス個数ノミガ問題ニナル。前ニハ順次天秤ガ釣合ツテキリタトキニハ最後ノ一歩手前デ 2個残シテヨカツタ。然ルニソレデハ此ノキリ後ニモ釣合ツタトキニハ残シタ 1個ハ異常デアルコトハワカツテモ重カツタカ軽カツタカノ確認ハ出来ナイ。シカシ最後ノ一歩手前テ 1個残スダケナラバ最後ニ残ラナイカラ 重カツタカ軽カツタカノ確認ガ出来ル。

ヨツテ前ヨリ1個少イコトが必要且十分デアル。

(2) " $l$ 個ノ球ガアツテリノウチニ重ケノ異ナルモノハアツタトシテモ高ク一  
同デアルトイフ。コノトキコノ $l$ 個ヲ サニヨル判別スルノニ前ト同様ナ操  
作ニヨツテ行フトスル 場作ノ回数ハ $l$ ト $l$ ノ關係ヲ求ム"

トイフノヲ考ヘテ見ル

コノトキモ一旦不等式ナ図ラレレバ全ク前ト同様デアル、ヨツテ(1)ト同  
様  $l \leq \frac{3^l - 3}{2}$  が必要十分デアル。

[附記]

始めノ問題ニ於テ異常ノ球ノ重イカ輕イカノ始めカラ分ツテサルトシタト  
キ問題トコノ問題トノ關係ニツイテ一言シテ、キマス。

コノトキハ直ニ容易ニ分ルヤウニ " $l \leq 3^l$ " テアリマスガ、コレハ球全  
部ノ集合ヲ $A$ トスルトキ $A >$ 空集合又ハ $A <$ 空集合ガ始めカラ与ヘラレタ持  
別ノ場合トシテ考ヘルコトガ出来ル。ソシテ此ノトキ1個モ正常ノ球ガ確ヘ  
ラレテ斗ナクテモ十分ナルコトハ(2,2)ノ証明ニ次デ $AB$ ノ分割何レニ於テ  
モ少クトモ1ヶ所等号ガ成立スルカラ。シイ個數ノ球テ重サヲ述べレバヨ  
イトイフコトニヨル。

—以上—